



「食と農」「今と未来」をつなぐ

食べる、暮らす、未来をつくる。



毎日の食卓を考えよう

01 日本の食料自給率（カロリーベース）

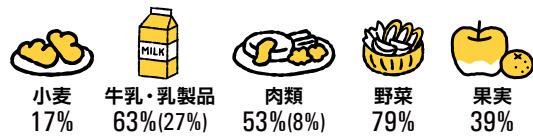
県内では、**5人に1人**の食料しか
自給できない状況

全国の食料自給率

広島県の食料自給率

38% **22%** ※全国36位

品目別の自給率(2021年度)



資料／農林水産省「食料需給表」
注／数値は品目別自給率(重量ベース) () 内は飼料自給率を考慮した値。

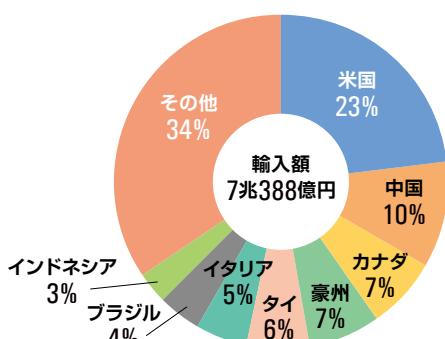
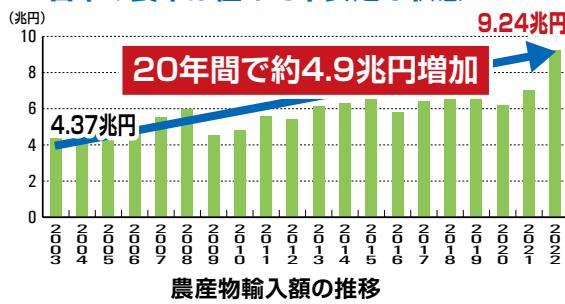
飼料、肥料、種子を
考慮した実質自給率は **9.2%**

輸入が途絶えれば食卓に多大な影響

資料／農林水産省による令和4年度食料自給率を基に鈴木宣弘が試算

02 農産物輸入額の推移

気候変動や世界の人口増加、国際紛争等、
情勢がめまぐるしく変化する中、
日本の食卓は極めて不安定な状態



日本の農産物全体の国別輸入割合(2021年)

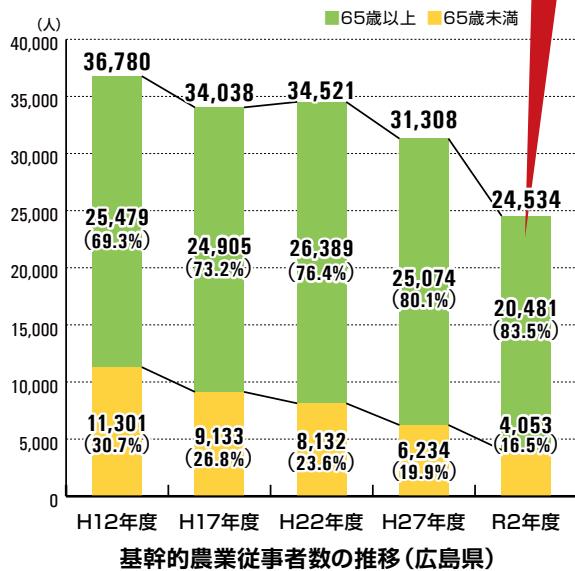
資料／農林水産省「農林水産物輸出入概況」

毎日の食卓を考えよう

03 生産者と農地の現状

生産者の減少と高齢化が加速

広島県の高齢化率全国ワースト2位



基幹的農業従事者数の推移(広島県)

緩・急傾斜地が農地の大半を占めており、
荒廃農地の拡大が加速



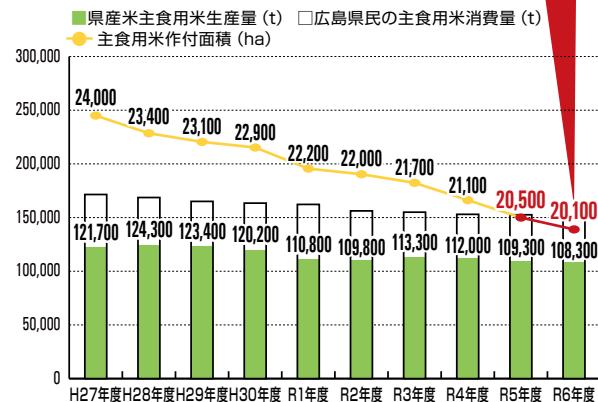
農地面積の推移(広島県)

04 お米の現状

広島県産の主食用米の生産量が、県民の米の消費量を賄えていない状況

令和6年産の作付面積400ha減少※前年度対比

約3万7千人分のお米を作れる大きさ



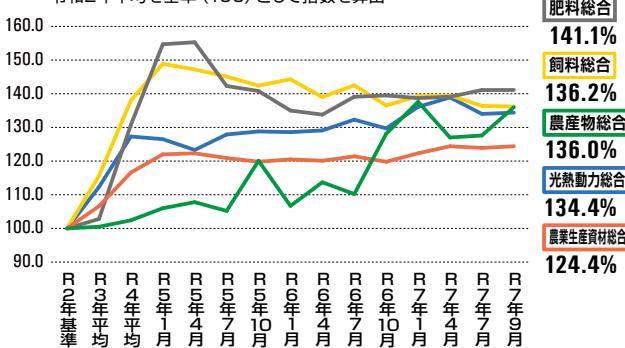
出典／県産主食用米生産量及び作付面積：農林水産省作物統計調査
県民の主食用米消費量：農林水産省公表の1人当たりの米消費量に
広島県公表の広島県推計人口を乗じて算出（推計値）

広島県内の消費量・生産量・作付面積の推移

05 飼料・肥料等の現状

国際紛争や気候変動、為替変動などにより、
生産資材が高止まりし、価格への転嫁が
進められている

令和2年平均を基準（100）として指数を算出



国産農畜産物と生産資材価格の推移

消費・生産双方の持続可能性（安全保障）に懸念

何も対策をしなければ起こり得る未来

01

食品価格の不安定化

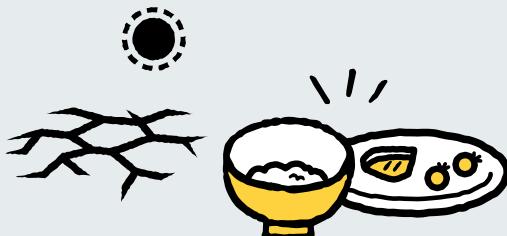
農業の生産基盤が揺らぐと、需要と供給のバランスが崩れて価格が不安定化し、家計に負担がかかります。



02

食料の入手困難

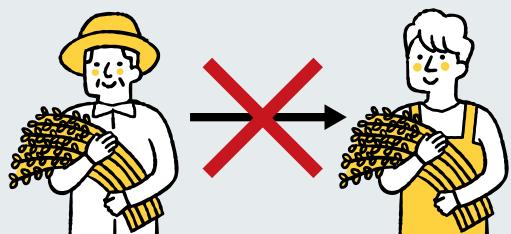
国産の食料が不足すると、輸入に頼る割合が増えます。特に災害や国際情勢の悪化で輸入が途絶えると、食料不足が深刻化します。



03

地域の衰退

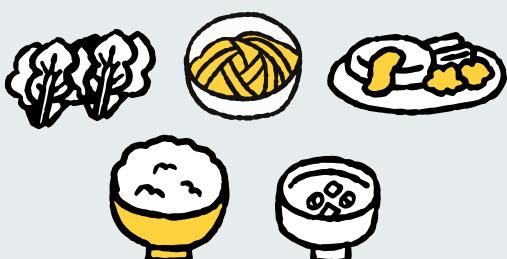
人口の減少、農業をはじめとする地方の基幹産業が、グローバル競争や後継者不足で衰退し、地域活力の低下につながります。



04

食文化の喪失

地域特有の農産物や伝統的な食材が生産されなくなると、日本の食文化が失われる可能性があります。

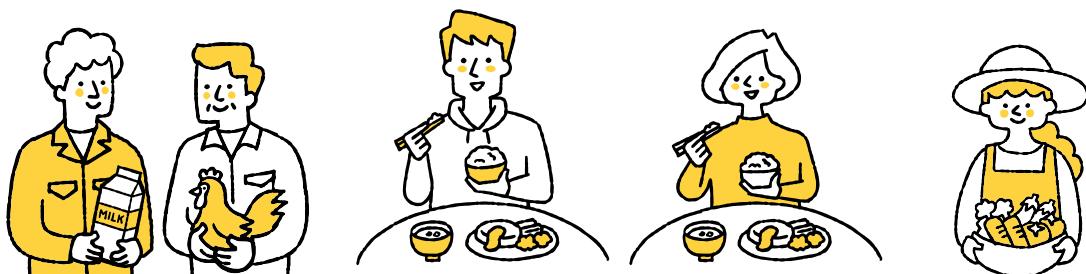


未来のために、今できること

JAグループ広島は、食と農をめぐる情勢等をふまえ、持続可能な農業の実現を通じた食料安全保障の確立へ貢献することを1つの使命としています。

食卓の安全・安心を守るために農業が果たす役割は大きく、持続可能な農業の実現が、消費者への食の安定供給につながるものと確信しています。

「農業の課題は食の課題」です。食と農の未来のために、消費者・生産者双方にとって有益となる取り組みを共に実践していきましょう。



みんなで声を届けて、未来を動かそう

持続可能な食と農の実現のためには、生産者の再生産所得を確保しつつ、消費者も購入可能な価格水準である必要があります。適正な価格形成と、それを支える消費者所得の確保を実現することは、未来のためにも必要なことです。

これらを実現するための源泉は、みなさんの「声」です。



ひろしま地産地消ファンクラブ

広島県産の農畜産物を
食べて・飲んで・飾って
地産地消を応援しよう！



Homepage



JAグループ広島×RCC
共同YouTube



Instagram

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ広島